

わおん 通信

2015
春号
vol.16

特集

家庭をまるごと省エネ化

わかやま「節電所」

建設プロジェクト2014



CONTENTS

P2 - P3

県内地域の取り組み

薪づくり好調 発足から2年
災害復興 その後の対応は？
エコわかビンゴや発電体験など

第2回 推進員マッちゃんの
あ~したら、こ~なった！

P4 - P5

わかやま「節電所」

建設プロジェクト2014
中小企業向け省エネ診断も推進

P6 県情報

紀南幼稚園で自然体験型保育研修会開催

P7

推進員さん訪問記^⑫
なるほど ザ・ワード

P8

INFORMATION

調好から2年 薪づくり発足

【紀南薪ぐらしネット(エコネット紀南)】

里山の保全活動を皮切りに本格始動した「紀南薪暮らしネット」も丸2年が経ちました。

昨年は、田辺市から土地を借りることができ、原木収集から薪づくり、薪の提供という一連の流れが定着してきました。扱っている木の種類は、杉やヒノキ以外に梅の伐採木も集めるようになりました。

ご存知の通り、紀南地域は梅の産地。毎年どこかの農家が、古くなった梅の木を植え替えており、その際に大量の伐採木が出るのですが、この処理がなかなか大変なようで、取りに行くとも無料でも



らでも分けていただけません。その量はとてつもなく、2〜3軒の梅農家からだけでも早くも借りた土地がいっぱいになり、新たに土地と薪の提供先を増やさなければならぬほどです。大変ありがたく、薪づくりと保管の対応に追われています。けれども、薪づくりはやればやるほど本当に楽しい活動です。ご興味のある方、参加してみたいという方は、ぜひエコネット紀南までご連絡下さい。(p8インフォメーションへ)

災害復興 その後の対応は？

推進員講師学習会

【推進員 榎村 健(エコネット紀中)】

JR粉河駅前にある、築百年の古民家「山崎邸」を拠点に、門前町として栄えた歴史や文化を守りつつ、街おこしの取り組みが始まっています。昨年の大改修で一段と快適なスペースとなり社会福祉法人一麦会(麦の郷)が運営するカフェも出来ました。今回は、農のある暮らしづくり推進対策事業の一環で、週1回開催している、「ふれあい寺子屋」の中で、「災害と環境」をテーマに講演会を開催しました。温暖化のメカニズムや温室効果ガスの95%が人為的に排出されている可能性、温暖化を

防ぐために、一人ひとりが出来る対策についてお話ししました。また、平成27年度環境省重点施策にも記載されている、東日本大震災の教訓や災害後の廃棄物処理の重要性についても伝えました。平成23年紀伊半島大水害ではリサイクル企業の社員20〜30人が現地に泊り込みで作業を行い、コンテナ船で大量の廃棄物を新宮港から神戸港に運んだことも紹介しました。



えこわかビンゴや 発電体験など

2015年3月1日
岩出市民ふれあいまつり

[ストップ温暖化岩出の会]

岩出市総合保健福祉センターで、今年も市の生活環境課と共催で出展。当会の活動テーマである「親子で体験する環境教育」に基づき、楽しみながら環境への関心を持ってもらえるよう準備しました。今回は、手回式発電と熱エネルギー差発電の違いを知ってもらい、温水と冷水を入れるとCO₂を出さずに発電できるしくみや、ロウソクを燃焼して酸素やCO₂の濃度を測定する体験を用意しました。また、ゴムの力で自走するユーターンカーの制作で

は、うまくできた時の感激と自動的に動く不思議さから、子どもにも親にも大変喜ばれました。その他、ビンゴ形式で環境のことがわかる「えこわかビンゴ」というオリジナル質問シートを配付。子ども向け温暖化パンフレット「えこわか」を使って調べ、「3

マス正解すればビンゴ粗品進呈」に100名の親子が参加しました。あいにくの雨模様でしたが絶え間なく参加者が訪れ、5名の推進員が汗をかきながら、充実したイベントとなりました。

推進員：城 保宏



えこわかビンゴ体験



ユーターンカー制作体験



酸素・CO₂濃度測定体験

第2回 推進員
マツちゃんの

あ～したら、こ～なった!

たぶん2007年頃だと思いますが、時々行く岩出市のファミリーレストランで店内の照明50個以上が60ワットの白熱電球であることを発見、これは何とかしなければ!と思いました。この店はレトロな雰囲気があり、白熱電球がぴったりです。そこで店長に「省エネ電球にすれば60ワットが10ワットになり、数万円が浮きますよ」と進言、しかし店長は「変な奴がやってきて、変な事を云っている」みたいな感じでその場は終わりました。

そして数カ月後にまた訪ねると、なんと白熱電球はすべて省エネ電球に!店長に聞くと「自分で電気代を

計算してみたところ、一カ月に4万円も安くなることがわかって全部取り換えました」とのことで、お互いに喜び合いました。またこのお店はその後に割りばしをプラスチック箸に変更、トイレも人感センサーを導入してエコレストランに変身しています。

さらに、この件を行きつけの中華料理店とラーメン屋に話したところ、どちらも白熱電球は切れたものから省エネ電球に、割りばしもプラスチック箸との両方を置いてもらうことになりました(でも、割りばし使用が多い...)

建設プロジェクト2014

そして3年目に向けて



今年2月。これまでプロジェクトの中心的な団体として、地球温暖化対策協議会&推進員グループをはじめ、県内の婦人団体、や中小企業団体などが集まり、さらに大きな県民運動として続けて取り組んでいくことが肝要であり、継続した取り組みとして来年度も引き続き行っていこうという話し合いがまとまりました。

これを受けて「節電所」のとりくみを引続き実施していく予定です。この取り組みの特徴は「一人からでもはじめられる」点。最寄りの協議会やグループがなくても、推進員としての活動を実施することができます。新たに発電所を作ること容易ではありませんが、それぞれの家庭が「節電所」となることで、地域の低炭素社会づくりにつながっていきます。

中小企業向け省エネ診断も推進

「省エネ診断」は、一般財団法人省エネルギーセンターが中小企業を対象に、無料でオーダーメイドの省エネ策を提案する制度。

「エネルギー使用合理化専門員」と呼ばれる専門家が診断先の工場やビルに出向いてエネルギー使用状況や設備の管理状況をチェックし、効果的な省エネ改善の提案を行います。具体的には、まず調査当日に診断員が口頭で説明。後日、改善に必要な投資費用と回収年数、メリット等を盛り込んだ報告書が送付され、さらにこれに基づく診断結果の説明会が開かれます。

わかやま環境ネットワークは昨年10月～12月、節電所プロジェクトの一環としてこの省エネ診断を5社で実施しました。その中のひとつが古座川町北部の平井地区にあってユズの栽培、加工、販売を行う「農事組合法人古座川ゆず平井の里」。同法人は1985年に事業を開始し現在従業員17人。今回の診断では専門員から、蒸気などの配管の保温や冷凍冷蔵庫の外気侵入経路の修理など8項目の提案があり、この提案を実施することで現在年間約400万円かかっているエネルギー費用を約10%

節約でき、一年に80トンの排出しているCO₂も6トンの減量できるとの見通しが示されました。

同法人を含め受診した企業からは、「違った視点からのアドバイスに感心した」「懇切丁寧な提案でエネルギーが節約できるのはありがたい」「社員の省エネ意識が向上した」などの感想が寄せられたほか。「エネルギーコストの削減は売上げ増による経常利益増と同じ」「省エネ診断は工場健康診断だと思う」と、経営に寄与することも高く評価されています。

「省エネ診断」はこれからも進めてゆきますので、対象になりそうな知り合いの企業等がありましたら、わかやま環境ネットワークまでお知らせください。



家庭をまるごと
省エネ化

わかやま「節電所」

今回で2年目

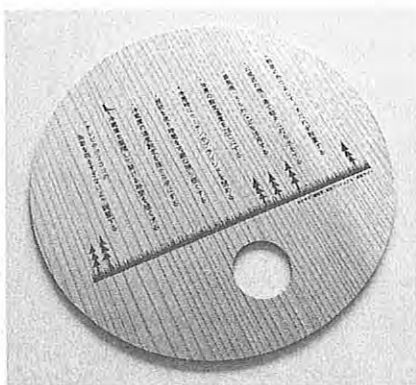
「ライバルは1年前の電気代」をキーワードにスタートしたこの取り組みも、今回で2回目。一人ひとりが関心を持ち、無理なく楽しく続けられることを目的としています。今年は471世帯の参加者がありました。昨年からの継続者は、うち274世帯(58%)がこの取り組みにチャレンジしました。



各地でセミナー開催

各地で節電セミナーを開催しました。今年は夏休み期間に子どもたちと一緒に温暖化とエネルギーについて学ぶ出前講座も開催。集まった子どもたちは、手作りソーラークッカーづくりを楽しみながら、地球の現状を知ってもらい、考え、

関心を深めてもらう機会となりました。また冬のセミナーも開催。参加者からは「暖かく過ごす方法についてまだまだ知らなかったこともあり、早速実践してみます」との感想。「家電並び替えゲーム」や「暖冷たべものゲーム」など、大人も夢中になれる企画も好評でした。



いつも手元に“涼”と“意識”を

今年は、ちょっと変わった節電ガイドを用意。スギの間伐材を利用したうちに、節電の取り組み9か条をプリントし、使いながらエコ意識を高めて行動できるよう工夫しました。参加を募ったある推進員さんは「素敵なものをいただいて、とっても便利に使っています」とコメントをもらったそうです。

個人で、家族で、ちょっとした声かけのきっかけに一役かうことができたようです。

取り組みアイデアが光った「表彰式」

昨年に引き続き、取り組み優秀者を選考して表彰式を行ないました。応募総数471世帯の中から24名がノミネートされ、アイデアいっぱいの取り組みに拍手が送られました。



自然と遊ぼう

紀南幼稚園で自然体験型保育研修会開催

関西広域連合

公開保育一知る



大きな楠の木の周りの長さを
身体をつかって調べる園児

平成27年1月24日(土)、自然体験型保育の研修会が田辺市下屋敷町の紀南幼稚園で開催されました。紀南地方の幼稚園教諭・保育士計10人が参加し、子どもたちに楽しみながら自然のよさや大切さを伝える方法を学びました。

関西広域連合広域環境保全局主催で、平成26年度から実施している事業。これまで兵庫県や大阪府で開催しており、今回で4回目、和歌山県では初めて。環境教育団体「環境レイカーズ」(滋賀県近江八市)代表の島川武治さんが講師を務めました。

午前中は、紀南幼稚園の年中・年長児22人を対象に島川さんが公開保育を実施。園庭で子どもたちと対面した後、近くの閭鷄神社に移動し、木の葉の匂いを嗅いだり、目を閉じて鳥の鳴き声を聞いたり、五感を使った体験をして楽しみました。

島川さんは、石を「グー」、木の枝を「チョキ」、葉を「パー」に見立てたじゃんけんゲームなど、工夫を凝らした遊びを次々に披露。子どもたちに「自然の中には、おもちゃになるものがいっぱいあります」と語りかけました。

参加者は、夢中になって遊ぶ子どもたちの様子に目を細めながら、熱心にメモを取りました。

参加者からは、「普段だったらなかなか気づかないような身の回りの自然物を使った遊びが学べて、良かった。」「この自然体験プログラムを是非自分の園でも取り入れてみたい。」との話が聞かれました。

午後からは、ワークショップで各々の気づきを語り合い、指導のポイントや教材の工夫等について学びました。その後、参加者を園児に見立てて、島川さんによる模擬保育体験が行われました。参加者は子どもの気持ちになって、興味関心をもち、様々なプログラムの楽しさを味わいました。

島川さんは、指導者自身が楽しむことが最も大事、先生の楽しそうな立ち居振る舞いが子どもの心に伝わりと助言しました。

今回の研修は、「知る」「分かる」「できる」「楽しむ」の4つがパッケージとなった有意義なものでした。

ワークショップ一分かる



参加者一人一人が感想を
述べ合うワークショップ

参加者の体験一できる



参加者が実際に体験することで
指導のポイント明確になる

参加者同士の交流一楽しむ



参加者の笑顔が子どもの
興味・関心を喚起する

コジロー(センター長)の

推進員ひよっこさん。訪問記¹²



紀の川市 岸本 憲一 さん

岸本憲一さんは、紀の川市にお住まいの推進員第2期生。長らく京都で公害対策関係の仕事に携わり、工場排水を浄化する装置や排煙から有害成分を除去する装置などの設計や施工に従事してきました。こうした経験を活かして1997年には環境カウンセラー(事業者部門)の資格を取得、企業の公害対策についての専門的な技術援助に加え一般市民を対象とする学習会での講師なども務めてきました。

生まれ故郷の和歌山に戻ったのは定年退職からしばらくたってからのこと。退職後も京都の大学で専門分野の講義を受講したり、環境関連のシンポジウムに参加したりして最新の情報や技術に触れるようにしていましたが、紀の川市で暮らす義理の両親が高齢になったこともあって、そこに移り住むことになりました。

当地に来てすぐ、最初の推進員養成講座が開かれることを知りましたが、6日間もあった講座の日程はすでに予定が重なっていて、修了基準とされていた受講条件をクリアすることが難しく断念。翌年、満を持して2期目の養成講座を受講修了しました。地球温暖化についての講義内容はすでに知っていることが大半でしたが、市民活動の進め方についての話は新鮮で、得るところが多かったそうです。

推進員を委嘱されてからは、紀の川市内に住む推進員の集まりに参加して地元での活動の進め方を相談。市民への啓発活動などのかたわら準備を積み重ねて、2008年4月20日に紀の川市地球温暖化対策地域協議会(中川皓次代表)が結成されました。それ以後は、この地域協議会が活動の中心に

なって、「紀の川環境フェア」や「子ども環境学習発表会」などの催しを粘り強く開催してきました。

この協議会の活動について岸本さんは、「みんなよく協力してくれる」「仲が良いからできてること」といいます。こうした熱心な協力や仲の良さは、忙しくても定期的に開いてきた理事会と仲間を結ぶ機関紙、そして懇親会のたまものとか。そんな協議会で、岸本さんも3期目から二年間、代表を務めました。

＝いまの活動について思うことは？

「節電でもイベントでも、PR不足やなあ」「もっと人集める方法、難しいと思うけど、考えなあかんなあ」

「それと節電でも、使いすぎたら電気代が高くなるとか、一人ひとりが自覚できるような制度も必要やと思うよ。」

＝これからしたいことは？

「まず、個人的には自分とこの梅と柿、もう少し何とかしたい」

「活動では、子ども向けの環境学習がもっとできたらいい」「やっぱり、子供の頃から環境意識を育てるような、地道に変えていくことをゆっくりやっていきたいね」

忙しかった協議会の活動も今は、現役世代も無理なく参加できるように、少しばかりペースダウンしているとか。これについて岸本さん、「一気に変えるのは難しいからね、コツコツ息長くやっていくしかないからねえ」と結んでくださいました。

なるほど サ・ワード

COP21と世界の温室効果ガス削減目標

COPは1992年に採択された国連気候変動枠組条約の締約国が集まる会議(Conference of the Parties)の略で、後の数字はその会議が21回目にあたることを示します。京都議定書が採択されたのはCOP3で1997年に京都で開かれました。

COP21は今年末にフランスのパリで開かれることが決まっていますが、この会議の使命は2020年以降の温室効果ガス削減について、すべての国が参加する新しい制度に全締約国が合意することです。中でも重要なのは世界全体と各国の削減目標で、地球温暖化を抑制するのに実効ある世界の削減目標が合意され、さらにそれが

STOP温暖化・焦点の言葉 12

*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

各国の積極的な削減目標で裏付けられ実施されなければなりません。

ちなみに、世界の科学者で作る「気候変動に関する政府間パネル」(=IPCC)は産業革命後の気温上昇を21世紀末時点で2度未満にとどめるには、世界の温室効果ガス排出量を2050年までに2010年比40~70%削減することが必要と指摘しています。

温室効果ガスの削減量は経済に密接に関連するため、COPでは毎回、国益をめぐる厳しい対立が合意を妨げてきました。しかし、足踏みをすればするだけ時間は失われ、地球環境の危機は深まります。私たち市民もこの会議の行方に注目するとともにできる範囲で声をあげ、積極的な目標での世界の合意をあと押ししたいものです。

教育プログラム案内

子どもから大人まで～行動をかえるための学びのしくみ

「ESD」をご存知ですか？

私たちの暮らしの中で多くの資源を利用し続けている今、持続可能な社会づくりが求められています。未来に向けて行動するために、一人ひとりが考え、学び、話し合う教育、それがESDです。推進員活動の一環として、以下のWebサイトにアクセスしてみてください。

ESD 環境教育プログラム <http://www.geoc.jp/esd/>

また環境教育プログラムモデルのガイドブックも発行されています。
◆同サイトの「ガイドブック」よりダウンロードして参照ください。

ESD(Education for Sustainable Development)とは、「一人ひとりが世界の人々や将来世代、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のこと」を言います



募 集



紀南薪ぐらしネット 活動メンバー募集

田辺地域を中心に薪づくり活動を展開しています。
メーリングリストを開設し、日程の連絡や情報交換などを行っています。詳しい案内は下記 Web サイトを御覧ください。
<https://sites.google.com/site/econetkinan/>
[またはエコネット紀南で検索]

県センターよりごあいさつ

日を追うごとに風も春めき、事務所から望む海も輝きを増してゆくようです。和歌山県センターは3月10日付で県知事より再指定を受けました。気持ちを新たに、推進員や地域協議会の皆さまと手を携え、県内の地球温暖化防止活動の推進拠点としての活動を旺盛に繰り広げてまいりますので、よろしくお願いいたします。

センターはこのたび、省エネと家計の節約にすぐ役立つ『冷蔵庫のはなし』と推進員活動をコンパクトに紹介した『推進員ガイド』の2点を作成しましたので、必要な方はお申し出ください。

また、公式ホームページや推進員専用の WEB サイト(右記)、推進員メーリングリストを通じ、活動の交流や研修機会の紹介などを行っておりますので、新規に参加をご希望の方、またアドレスを変更された方はぜひ、下記の「編集・お問い合わせ」までご連絡ください。



わかやま推進員サイト
(和歌山県温暖化防止活動推進員サイト)
<http://wenet.info/sui/>

2015 春号 vol.16



発行／和歌山県環境生活総務課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL: 073-441-2690 FAX: 073-433-3590
mail: e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問い合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL: 073-499-4734 FAX: 073-499-4735
mail: wenet@vaw.ne.jp